



安全品質の取組みについて — 予防安全活動の定着 —

株式会社つうけん

1. はじめに

株式会社つうけんでは、「こころと技術で社会のために」のコーポレートスローガンのもと、安全第一を基本として、お客様の満足を得る高信頼の情報通信ネットワークの構築とサービスの提供に努め、地球環境に優しい事業活動をとおして、地域環境へ貢献し事業の持続的発展を目指しております。

弊社安全品質の取組みについては「予防安全活動の定着」をキーワードとして、「人身事故防止」「設備事故防止」「交通事故防止」「品質向上」「お客様情報漏洩事故防止」の各項目について取り組んでおります。

また、2020年から感染拡大しております、新型コロナウイルス感染対策の取組みにつきましても、その一端を紹介致します。

2. 忘れてはならない事故

2020年9月5日（土）8時29分

支障移転工事に伴うケーブル撤去作業において、工事現場に駐車するため、当方の運転する4tユニックが後進したところ、後方にいた専門交通誘導員が被災する事故が発生しました（図1）。

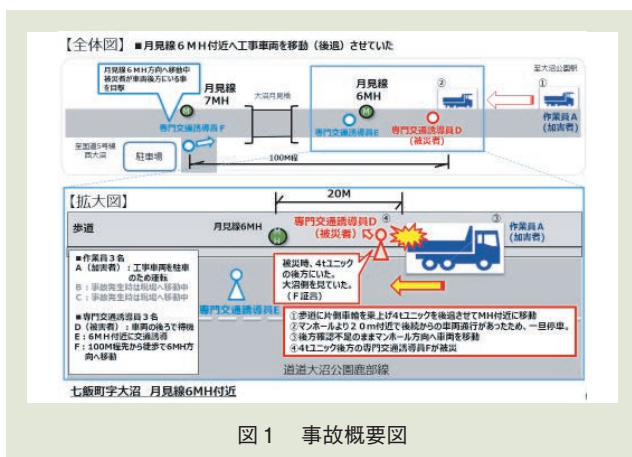
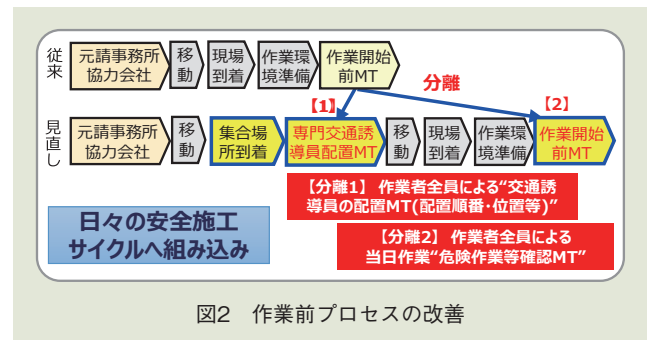


図1 事故概要図

(1) 交通誘導員事故の再発防止策

① 作業前行動のプロセスを見直し、現場環境等イレギュラー時における対応を可能とするため、全作業員による「専門交通誘導員配置ミーティング」を必ず実施することとしました（図2）。



② 事故を契機とした車両安全装備化の促進

◇車両安全装備の緊急実態把握と装備化を早期に実施



- ドライブレコーダー等
- バックモニター
- バックブザー

全台装備化（1,164台）
2021年3月に完了

(2) 交通事故風化防止の取組み

① 工事用車両の死角確認研修（2020.9月全班実施）

【専門交通誘導員および施工班運転手双方の立ち位置を確認・体感し、コミュニケーションの必要性・重要性を理解】



② 風化防止

全社統一行動の実施
(2021年9月6日)

- ・全社員（協力会社含む）による黙祷
- ・工事用車両の死角確認演習の実施
- ・事故事例危険予知訓練の実施

3. 交通事故撲滅に向けて

2017年度をピークに交通事故の発生件数は、減少傾向にあります。当時は、安全運転啓蒙活動や道外支援班への冬型事故防止教育、車両の装備化等が不十分であったと思われませんが、その後、安全運転指導の徹底、装備化等が進み現在は減少しています。しかしながら、加害事故の発生割合が高く、個人の運転スキルや安全意識の向上などの課題があり、今後も安全運転指導を強化と先進技術による装備化の推進を図っていきます。

交通事故発生件数の推移 (件)



(1) 先端技術による車両の装備化推進

◇死亡事故を契機に車両安全装備化を加速し、2021年3月に全台装備化(1,164台)を完了しました。今後も、追突防止自動ブレーキなどの先進安全技術を導入していきます。

済 ドライブレコーダー等

済 バックモニタ

済 バックブザー

バック(コーナー)センサー

・2022 完了予定

追突防止自動ブレーキ

・車両更改時に装備

2021.3
完了

(2) 運転スキル・マインドの向上施策

◇撲滅に向け取り組んでいる事例です。施策が陳腐化しないよう、現場の意見を取り入れ工夫を凝らし実施しています。

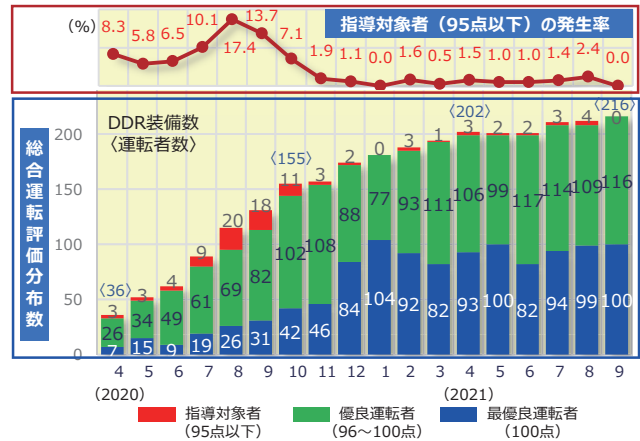
- 交通安全講習セミナー(現地・オンライン・年齢層別)
- NASVA※の適正診断(第一当事者/協力会社含む)
- 安全啓蒙活動「前からスタート」・各種ステッカーの貼付
- 冬道運転教習(若年層・道外支援者)
- 交通シュミレーター(中高年者対策)、VR
- 安全運転マイルージ制度(無事故達成インセンティブ)
- 安全運転指導(DR・DD活用)
- 安全運転責任者に対する運転指導スキルの付与
- 冬の安全装備点検の実施(ITEA北海道統一施策)

※NASVA: 独立行政法人自動車事故対策機構

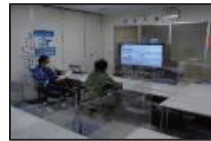
① ドライブドクターを活用した運転指導の強化

◇2021年度10月末で、7件の交通事故が発生しましたがドライブドクター装着運転者の事故は、0件を継続し指導対象者も減少するなど運転指導の成果が表れています。

総合運転評価の推移



2カ月連続発生者への指導



社長による直接指導(協力会社)

自身の危険運転映像の確認



② 安全運転責任者に対する指導スキルの付与

◇車両を使用する運転者への交通事故防止に必要な指示や指導を行う責務のある管理者に対し指導者として必要な運転技術および指導スキルを習得します。

受講対象者

・安全運転責任者(正・副)

研修機関

・北海道公安委員会 指定自動車学校

カリキュラム

・管理者としての同乗指導について
・受講生自身の運転レベルチェック
・模擬観察指導など(座学・実技)

③ 冬型交通事故対策

◇冬型事故防止を目的に降雪前に、安全パトロールにあわせ『冬の安全装備点検』を実施しています。

- 移動時におけるリスク回避
- 冬期間の車両事故防止

- 夜間の運転の自粛
- 始業点検の徹底
- 冬装備の徹底

安全パトロールチェック項目
に冬の安全装備点検を追加

- ・冬対策装備の確認(滑り止め、スコップ、砂の積載等)
- ・不凍液残量確認(始業点検で実施)
- ・ホワイトアウト時の対処方法確認など





4. 高度無線整備推進事業の安全対策

北海道内の光未提供エリアへの早期サービス提供に向けて、高度無線整備事業の建設工事（総工程：約5,000Km）を実施しているところです。建設工事を実施するにあたり、道内施工班に加え、道外より支援部隊が入り、工事に従事していることから、日々の安全施工サイクルの確実な実施が不可欠です。

元請会社の責務として道内外の施行班に対し「北海道の厳しい環境」に順応、安全施工するための各種安全教育・指導を実施していますので、その一部をご紹介します。

(1) 安全対策の実施状況および履行確認の強化

◇安心・安全な施工体制を強化するため、つうけん独自の安全対策指導強化プログラム（安全対策の取組みポイント）を作成し、各種安全対策の遂行・履行確認が確実に実施されているかについて、指導確認の強化を図っています。

＜安全対策指導プログラム抜粋＞

対策項目	取組み概要（チェックポイント）	履行確認方法	
作業前	集合時間の周知	・作業員、専門交通誘導員に対して工事にあたっての集合場所・時間を明確に伝える	・安全施工サイクル活動表の記載事項を確認
	専門交通誘導員ミーティング	・作業等への車両の配置や誘導時のポイントや飛込まれ事故対策などを意識合わせを実施	・各事業所安全担当等により確認
作業	伐木作業の注意喚起	・伐木作業ポイントについて、ITEA版による指導を実施	・出席者名簿及び、説明会資料等、実施内容を確認 ・各事業所等の技術部門長による記録確認
	回転工具等の安全操作の再確認	・芝刈り機、グラブナー等の使用の際の再確認を実施	
	バケット以外による高所作業時の作業確認	・バケット車、使用不可等における安全な高所作業手順の確認（現場・デスク相互確認）	
	新工法における安全施工方法の確認	・新工法の安全作業について確認（ケール側面固定及び巻付け工法）	
運転指導	・北海道特有（十勝型事故等）の事故事例の共有	・安全施工サイクル活動表の記載事項を確認	
車両運転等	車両安全装備品確認	・車両安全装備品の確認	・出席者名簿及び、説明会資料等、実施内容を確認 ・各事業所等の技術部門長による記録確認
	工事車両移動時の誘導徹底	・工事用車両、後退時の誘導	
マネジメント	車両一回り運動の推進	・現場外等における車両後退時の確認運動	・パトロール点検表による点検及び各事業所等、技術部門長による記録、書類確認
	安全パトロール強化	・通常パトロールに加え、本チェックポイントについて確認・指導	
	特別安全パトロール	・EG部・安全品質強化本部による履行確認及び現場確認	

2021.4月～9月＝延べ5,500項目の履行を確認

(2) 安全対策事例

安全な施工体制

- 新規入場者教育、研修
- 工事車両の安全装備
- 朝の全体朝礼と現場KY
- 安全パトロール
- 掲示板による注意喚起

安全な環境整備

- 事務所の衛生環境整備
- コロナ禍対策
- ヒゲマ対策
- 夏の熱中症対策
- 冬の風雪対策

① 新規入場者教育、装備点検等

◇現場の状況や危険箇所、現場のルールなどについて十分な知識を習得し情報共有を実施します。

- ・作業所の安全衛生計画の内容伝達（工事概要等）
- ・作業所の概要と規則、保護具の使用、機械の取扱い
- ・安全装備品の点検、各種作業に必要な資格の確認
- ・危険場所、緊急連絡、応急措置、避難方法など

新規入場者教育



装備点検・確認



② 工事車両の安全装備等

◇バックモニターとバックブザーはバケット車・ユニーク車・ワゴン車に設置（後部視界が悪い交通誘導規制車にも設置）



③ 朝の全体朝礼と現場ミーティング

◇全体朝礼を実施（毎朝）

- ・ラジオ体操、連絡事項周知、各班作業予定確認
- ・服装確認・体調確認、当日作業のKYT

◇現場到着後、交通誘導員を含めた作業前現場KY実施

全体朝礼



現場ミーティング



④ 安全パトロールによる指導

◇作業員への問いかけKY等によりコミュニケーションを図り同じ作業形態の事故事例等を出して安全作業を指導。

幹部による指導



安全専任者による指導



現場写真等

新工法（リング内側面固定工法）



樹木伐採



5. 新型コロナウイルス感染防止の取り組み

2020年3月社長をトップとした新型コロナウイルス対策本部を立ち上げ、協力会社を含めたつうけんグループの取り組みを紹介します。

(1) 第一波（2020年3月～5月）

日々の体調管理、全国的に不足したマスクの調達、消毒液を確保し社員および施工班へ配布、事業継続に向け感染リスクを回避するための措置（在宅勤務／分散対策／通勤手段の変更）を実施するとともに、感染者発生時の行動計画等を策定し、つうけんグループ事業継続マニュアル_新型コロナウイルス編（図1）として作成しました（随時見直しを図り、現在第4版）。

(2) 第二波（2020年6月～9月）

感染者発生時の事業中断を避けるため、間仕切り等による分散対策を強化し（図2）感染者発生時の対応演習も実施しました。オンライン会議、自費PCR検査の実施もこの時期から本格化しました。

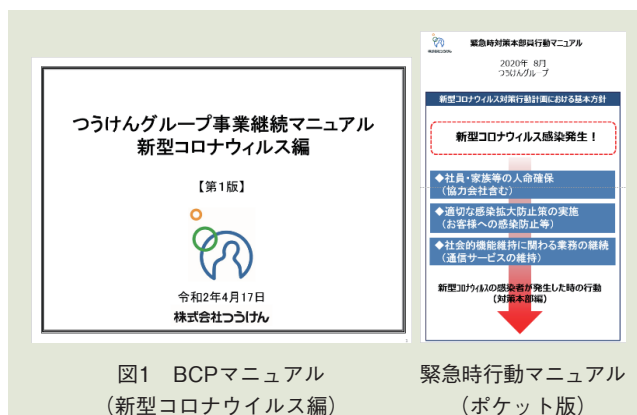


図1 BCPマニュアル
（新型コロナウイルス編）

緊急時行動マニュアル
（ポケット版）



図2 分散対策（例：旭川事業所）

(3) 第三波（2020年10月～2021年3月）

基本的行動計画を感染ステージに合わせて見直し、不要不急の出張、感染拡大している札幌市との往来を自粛し、年末年始等の懇親会は中止。

(4) 第四波（2021年4月～6月）

感染者が急増、3度目の緊急事態宣言。不特定多数のお客様と対応するSOおよび故障修理班に対し、2週間ごとに定期的なPCR検査を開始。

(5) 第五波（2021年7月～9月）

4度目の緊急事態宣言。夏季休暇後、北海道内の全施工班および感染が拡大している札幌エリア社員1,900名に対し、PCR検査を実施（全員陰性）。

つうけん、グループ各社、協力会社および関係会社の社員および家族概ね1,400名に対し、ワクチン職域接種を実施（9月～10月）（図3）。

10月以降感染者が減少していますが、気を緩めることなく、感染予防行動を継続していきます。

札幌市内3会場にてワクチン職域接種を実施
（医師／看護師を除く、スタッフは各職場の皆さん）



図3 ワクチン職域接種の様相

6. おわりに

事故発生の際に知恵を出し合い、再発防止を検討実践しておりますが、それでも事故は発生しています。事故の撲滅・最小化に向けて新たな対策の知恵を絞り命を守る仕組みをしっかりと続けなければなりません。

基本動作および作業手順を遵守し、仲間で声を掛け合いながら、事故のない、明るく活力のある現場・職場を作るため、引き続き安全活動に取り組んでいきます。